

平成 22 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

1. 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバス等の旅客輸送の確保ならびにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関等が協議・連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 20 年度には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップ等を実施し、平成 21 年 3 月、これからの公共交通施策の根幹ともいべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」の策定に至った。

平成 22 年度においては「総合連携計画」に則り、以下の事業を実施した。

2. 平成 22 年度の事業内容

(1) 活性化協議会の開催

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	4 月 28 日	12 人	0 人	・平成 21 年度事業報告, 決算 ・平成 22 年度事業計画, 予算
第 2 回	8 月 9 日	13 人	5 人	・幹線バス運行内容の改編案について ・幹線バス ベンチ広告料の設定について
第 3 回	11 月 26 日	11 人	1 人	・幹線バス, 三ツ石乗合タクシーの運営状況について ・栗谷線の運行内容の改編案について
第 4 回	3 月 25 日	13 人	3 人	・事後評価結果について ・実証運行の利用状況について ・利用者アンケートの調査結果について ・幹線バスの愛称について ・次年度計画事業の概要について

【事業費】	報償費	150,000円	(@5,000円×30人)
	食糧費	3,900円	

(2) 幹線交通検討分科会の開催

幹線バスの検証と改善策の検討のため、前年度に引き続き分科会を開催した。4 月～11 月までに全 6 回を開催し、幹線バスの改善案、1 周年の記念イ

ベント、ベンチ広告、愛称募集などについて協議し、すべて実施に至った。

また、10月26日の1周年記念では、街広報や、車内でのグッズ配布など利用促進に向けて精力的に取り組んだ。

【事業費】	食糧費	7,400円
--------------	-----	--------

(3) 国土交通大臣表彰の受賞

平成21年度における本協議会の取り組みが高く評価され、地域公共交通活性化・再生事業の優良団体として中国地方では初の受賞団体となった。

平成22年6月18日、東京都で表彰式が行われ、会長以下4名が出席。式典と事例発表を行った。

【事業費】	旅費	162,150円
--------------	----	----------

(4) 広報紙による啓発記事掲載

市発行の「広報おおたけ」に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

【事業費】	印刷製本費	227,500円
		(@1.40円×13ページ×12,500部)

(5) おおたけ幹線バス（コミュニティバス）の実証運行

前年度に引き続き、実証運行を継続した。10月にはダイヤ改正を行い、運行時間を短縮するとともに平日の早朝便を増便した。

利用者数及び収益率は増加傾向にあり、平成26年度の目標（1便6人、収益率50%）の達成に向けて順調に推移している。

○幹線バス実証運行（受託者：(有)大竹交通 (有)大竹タクシー）

【運行期間】 平成22年4月1日～平成23年3月31日

【運行区間】 JR大竹駅～JR玖波駅（全長：8.0km 停留所：19カ所）

【運行便数】 4月～9月：32便/日 10月～3月：平日34便 土日祝日32便

【利用者数】 66,456人（無料運行日含む。平均値：182人/日 5.57人/便）

【運行経費】 27,964,400円 ※2台運行

【事業収入】 12,252,564円（収益率：43.8%）

【補助金額】 15,711,836円（国：7,855,918円 大竹市：7,855,918円）

○関連事業費

回数券印刷：29,400円

携帯用時刻表印刷：18,900円

車両用マグネット作製：59,220円

停留所標識張替：46,800円

(6) おおたけ幹線バス停留所 コマーシャルベンチ設置事業

停留所に待合用ベンチを設置し、利用者の利便向上を図った。また、背面に広告を設置できるように設定し、事業収入の確保に努めている。

【事業費】設置費	48,960円 (@3,060円×16台)
【広告収入】消費生活センター(大竹市)	89,880円
黒川自治会	10,080円
※ ベンチ購入費 698,750円は平成21年度会計から支出。	

(7) おおたけ幹線バス 愛称募集事業

より皆さんに親しみと愛着を持って利用してもらうため、12月に新たな愛称を公募した。

267件もの多くの応募があり、選考委員会で審査の結果「こいこいバス」に決定した。(使用開始は平成23年5月5日から。)

【事業費】副賞(回数券)	最優秀賞・参加賞・残念賞	32,000円
※ 最優秀賞(7人)の記念品(14,000円)はH23会計から支出。		

(8) 三ツ石地区乗合タクシーの実証運行

前年度に引き続き、実証運行を実施した。21年度の利用状況をふまえ、地域との協働により7月にダイヤを改正。6月からは利用者が急増し、1月に運行1,000台、3月に利用者2,000人を達成。

○三ツ石乗合タクシー実証運行(受託者:(有)大竹交通)	
【運行期間】	平成22年4月1日 ~ 平成23年3月29日
【運行区間】	三ツ石地域 ~ ゆめタウン大竹または市役所
【運行便数】	毎週 月・火・金 4/1~7/2:10便/日 7/5~:11便/日
【利用者数】	1,564人(895台) 平均値:1.75人/便
【運行経費】	805,500円 (@900円×895台)
【運賃収入】	376,100円 (収益率:46.7%)
【補助金額】	429,400円(国:214,700円 大竹市:214,700円)
○関連事業	
【事業費】	記念キャンペーン費用 10,000円

(9) 大竹・栗谷線の改編

沿線住民の利便性を確保するため、平成23年1月から1便に限り大竹駅までルートを変更した。あわせて、幹線（こいこい）バスとの乗継や利用実態を考慮してダイヤの改正を行った。

なお、沿線の移動手段を、住民と抜本的に再検討することとしており、ルート延長については、それまでの暫定措置としている。

(10) 新たな支線交通の拡充にむけた検討

新たな支線交通として、「玖波7丁目」及び「小島地区」において住民組織を立ち上げ運行内容の検討を行っている。

協議が整い次第、順次、実証運行を行う予定である。

(11) 平成22年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するにあたり、専門的知識・ノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

【受託者】 (株)地域未来研究所中国四国事務所

【業務名】 平成22年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

【履行期間】 平成22年8月5日～平成23年3月25日

【主な業務内容】

○幹線バスダイヤ改正に向けた分析と検証

○チラシ・ポスター等の広報コンテンツの（チラシ・ポスター）作製

○1周年記念事業利用促進ツール（携帯用時刻表）の作製

○アンケートの実施及び分析

○愛称募集の実施

○三ツ石乗合タクシーの再編支援

○新たな支線交通の導入に向けたニーズ把握・支援

○栗谷線改編に伴うダイヤ等の検討

【事業費】 6,000,000円（国：3,000,000円 大竹市：3,000,000円）